

コミュニティ なるお



○発行日
2026. 5. 1

○発行責任
鳴尾連合自治会

○編集
コミュニティなるお
編集委員会

TEL. 47-0101



牧野さんが見つけた写真。鳴尾名物だった綿摘み踊りの様子(昭和3年7月26日甲子園大運動場にて)

わがまち あつひだ つひだ

人をつなぎ、歴史を未来へ

鳴尾町4丁目自治会

会長 牧野 保代さん



尼信との出会い

「この古い土地には、きっと何か古いものが残っているはずや」約8年前、尼崎信用金庫(尼信)の支店長からかけられたその一言が、牧野保代さんの歩みの始まりでした。

牧野さんは現在、鳴尾町4丁目自治会長として地域をまとめながら、さまざまな活動に取り組んでいます。

1枚の写真から

当時、特定の盆踊りの存在が分かっていたわけではあり

ません。しかし、「古い土地には何かがある」という言葉を手がかりに、古い文献や写真を探し始めました。そして手にした『鳴尾村誌』の中に、甲子園大運動場(現・阪神甲子園球場)で開催された「鳴尾綿摘み音頭大会」の写真を発見します。球場いっぱいに広がる踊りの輪。多くの人が踊るその姿に、鳴尾には確かに文化が息づいていたことを実感しました。

記憶をたどる

調査を進める中で、鳴尾高校放送部に残されていた録音テープの存在が分かります。地域の古老が語った音源が見つかり、唄は約80年ぶりによみがえりました。

振り付けの記録は残っていませんでしたが、当時踊っていた人の姪がいることが分かりました。子どもの頃、叔母の横で踊りを見ていたというその女性と共に、記憶をたどりながら一つ一つ動きを再現

し、曖昧な部分は何度も確かめ合い、少しずつ形になっていく踊り。それは、世代を超えて記憶をつなぎ直す時間でもありました。



牧野さんがまとめた冊子。『むかしはあったよ 鳴尾の綿』

広がる輪

楽曲を子どもたちが踊りやすい形に整え、新聞各社へ自ら手紙を書いて発信。尼信をはじめ、多くの人が協力の輪に加わりました。

また、綿についてまとめた冊子も制作。すべての漢字にルビを振るなど、子どもたちが読みやすい

よう工夫されています。

まちを支える

自治会長として、防災訓練を通じて十町会の結束を強め、世代を超えた交流の場づくりにも取り組んでいます。「自分が楽しくないことは続かない。だから楽しいことをやろう」人の記憶を信じ、人をつなぎ、未来へ手渡す。牧野保代さんの歩みは、鳴尾の今を支える確かな力です。

～鳴尾の綿について～

鳴尾地域は、江戸時代から明治にかけて「鳴尾木綿」の産地として全国にその名を知られていました。

鳴尾周辺は武庫川の堆積物による砂混じりの土地で、米作りには不向きでしたが、綿花の栽培には最適でした。ここで作られた綿は繊維が太く、弾力性に富んでいたため、特に布団綿としての評価が非常に高く、江戸の市場でも高級品として重宝されたようです。

明治時代に入ると、安価な輸入綿の台頭や紡績工場の近代化により、地場産業としての綿作りは衰退していきました。

鳴尾川を訪ねて ②

鳴尾川はかつて、時代を超えて鳴尾村のランドマーク的な存在でした。いつの時代も鳴尾村の発展と鳴尾川両岸の変化は重なっていました。しかし、合併による村の終焉と同じくして鳴尾川は運河としての役割を終え、ランドマークとしての意味を持たなくなりました。

「我は海の子白波の さわぐいそべの松原に
煙たなびくとまよこそ 我がなつかしき住家なれ」

鳴尾川に隣接する鳴尾浜や甲子園浜の風景には、この唱歌が実によく似合っていたのではと憶われます。

今回は鳴尾川の水面に村の合併当時の風景を重ねながら、過ぎ去った鳴尾村の隆盛を思い、合併の背景について考えてみます。

鳴尾村の繁栄

幾多の荒波を乗り越えてきた鳴尾村が西宮市と合併し、62年の歴史に幕を閉じたのはなぜだったのか。いつの時代もその時々

流をつかみ、素早く村の発展に生かしてきたのが鳴尾村でした、そしていつも、鳴尾川はその象徴でした。

戦前、東岸の工場地域と、甲子園地域にあった数多くのレジャー施設や西岸の競馬場は、村繁栄の大きな源泉でした。一方、漁業に適した長い海岸線を持ち、平坦地にも恵まれ、イチゴやスイカ栽培も盛んでした。中北部には阪神間でも有数の文化地域があり、鳴尾村には自治体としての全てがあったのではと思います。

当時の鳴尾川には、そんな村の豊かさを写すように多くの荷を運ぶ船が岸に泊まり、日々さまざまな物資が行き交っていたことでしょう。

コーヒープレーク

鳴尾競馬場は太平洋戦争の激化に伴い、昭和18(1943)年に海軍用地としてへ徴用されたことで、37年の歴史に幕を閉じました。

しかし、戦時体制の強化とともにのどかな景色は様変わ

りします。特に、鳴尾川東部一帯が軍需工場の様相を呈しました。

阪神武庫川線と小曾根線が整備され、人員はもちろんのこと、大量の物資が日々、そこを通過して川西航空機とその関連の工場に運ばれていきました。

コーヒープレーク

武庫川線は、当時、洲先駅から現在のJR甲子園駅へ西宮駅までつながっていました。

このため、人口も急増して多くの住宅が建設されました。

た。戦争継続のためにさまざまな施設が整備され、この頃の鳴尾村は時勢とは逆に大変な活気があったのではと思います。

しかし、工場地帯は戦争末期には激しい爆撃の目標となりました。鳴尾川の風景を一変させました。その荒廃ぶりが『鳴尾村誌』に記述されています。

復興へ

終戦の後、鳴尾村は持ち前



昭和12年の鳴尾村



医療法人 信和会
明和病院



2027年5月
新棟オープン予定！！



〒663-8186 兵庫県西宮市上鳴尾町 4-31
TEL 0798-47-1767(代表)
0570-0-89470(患者さん専用)
ホームページ <https://www.meiwa-hospital.com>

関連医療機関：
めいわりハビリテーション病院/
明和クリニック/エルガ-西宮・
めいわりクリニック/訪問看護センター明和
居宅介護支援事業所

のたくましさで再び繁栄を取り戻すべく、復興の道を歩み始めました。

国の戦災復興計画基本方針の「戦災地域」に指定され、さらに、空襲で壊滅的な被害を受けた都市をゼロから作り直す「戦災復興都市」の適用も受けました。

コーヒープレーク

国の指定した戦災都市では、競馬・競輪事業で得た収益を復旧事業の財源とすることが認められていました。

復興の原動力となったのも鳴尾川両岸でした。軍需工場となっていた川西航空機は病院や機械製作などに転換し、明和興業に改称。新たに新明和工業と明和自動車工業も設立。豊年製油、昭和電極などの工場も復活しました。

左岸の工場地域と甲子園地域にあったレジャー施設が復興の財政を支えました。甲子園の一角に、東洋一の規模を持つ鳴尾競輪場（後の甲子園競輪場）が開設され、甲子園球場や甲子園大プール（甲子園水上競技場）などでの有料

の催しにも付加税を徴収できるようにになりました。

鳴尾川両岸からの税収により恵まれた財政を実現し、戦前からの構想であった単独市制「産業文化都市」へと大きく動き始めました。

財政の破綻

しかし、順調に見えた構想を打ち砕く出来事が続いたのです。

一つは、GHQ（連合国軍最高司令官総司令部）による税制改革でした。甲子園地域の入場税が県税となり、税収が途絶え、村の収入は激減して大きな赤字となりました。

さらに追い打ちをかけるように、昭和25年9月3日に超大型台風（ジェーン台風）が鳴尾村を襲いました。高潮は鳴尾川の堤防を破壊し、逆流し



破壊された鳴尾川の堤防

た海水が張り巡らされた下水路を一気に逆流して村中にあふれ、鳴尾村の大部分が浸水して甚大な被害をもたらしました。

コーヒープレーク

村内の下水は、村中に張り巡らされた下水管から善教寺裏の池などに集めて鳴尾川から海へ流されていきました。

生活再建のための緊急の財政支出を行い、今後の防潮対策に莫大な予算が必要となったのです。歳入不足に苦しむ鳴尾村に国や県の災害補助金の自治体負担分の費用をねん出できる余裕はありませんでした。ここに至り、単独市制を断念し、合併するしかありませんでした。

かねてから交渉のあった西宮市と鳴尾村の東部地域と、古くから深いつながりがあった尼崎市の激しい誘致運動の末、西宮市と合併しました。

コーヒープレーク

尼崎市の工業地帯へは鳴尾村から多くの人たちが通っていました。

合併の後

両岸には、浜甲子園団地や武庫川団地が建設され、田畑や鳴尾浜は姿を消しました。鳴尾川も防潮堤により姿を変え、運河としての役目も終えました。

繁栄を謳歌した鳴尾村時代、鳴尾川は村の象徴でした。今は両岸にかつての喧騒はなく、時代を終えた鳴尾川を訪ね来る人影もなく、その汀は日々、穏やかに波打つばかりです。



現在の鳴尾川河口。左下は昔の堤防跡

◆参考文献

『鳴尾村誌』

『西宮市史 第二巻』

◆資料提供(西宮市役所)

水路治水課

総務課公文書・歴史資料チーム

◆唱歌 『われは海の子』

作詞:宮原晃一郎

想いをかたちに 未来へつなぐ



TAKENAKA

竹中工務店

〒541-0053 大阪市中央区本町 4-1-13 tel: 06-6252-1201

〒136-0075 東京都江東区新砂 1-1-1 tel: 03-6810-5000

国土交通大臣許可(特-1)第2744号(般-1)第2744号

鳴尾東

橋は架けるのも解体するのも大変

武庫川に架かる最南端の橋・南武橋の架け替え工事が続いています。

新橋はすでに完成して利用されていますが、旧橋の解体撤去は昨年の11月ごろから始まっています。



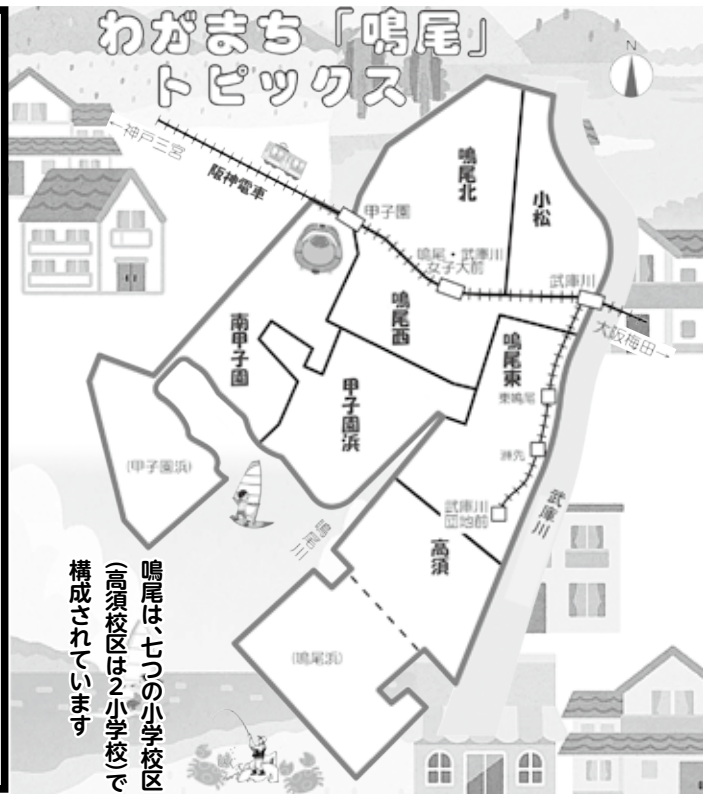
左から作業足場、旧橋、新橋

もう1本、橋が架けられるのかと思うほどの立派な作業足場には、大天を突くような巨大なクレーンが2台も載っています。まさに大工事です。

普段は何気なく渡っていますが、よく考えると長い期間にわたって使用するためには当然のことかもしれませんが、時に激しい流れに耐えるため想像以上の頑丈さが要求されるのでしょう。

撤去されている旧橋を眺めながら渡るときに、その頑丈さに感動を覚えます。そして、そんな橋を解体するにはそう簡単ではないことが実感できます。

わがまち「鳴尾」トピックス



鳴尾は、七つの小学校区(高須校区は2小学校区)構成されています

高須

ヘルメットの着用を!

高須地区では、朝の通学時間帯になると小・中学生が通学路を歩き、自転車で通勤・通学する人の姿も多く見られます。また、地域内には自転車が通行できるよう整備された歩道もあり、自転車利用が身近な地域です。

4月1日から道路交通法が改正され「交通反則通告制度(青切符)」が導入されて1カ月がたちますが、皆さんルールは守られていますか。子どもたちが安心して通える地域にするためにも、改めて交通ルールを確認しましょう。

甲子園警察署交通課の松田さんは、自転車安全利用の五則を守ってほしいと呼びかけています。

- ① 車道が原則、左側を通行。歩道は例外、歩行者を優先
- ② 交差点では、信号と一時停止を守って安全確認
- ③ 夜間はライト点灯
- ④ 飲酒運転禁止
- ⑤ ヘルメット着用。努力義務ではありませんが、大切な命を守るために着用が勧められています



お知らせ:5月17日(日)赤胴車マルシェを開催します

災害に備えて

小松

小松自主防災会は、平成9(1997)1月26日の結成から29年目を迎えました。このたび、西宮市から、結成20年以上の自主防災会を対象とした防災資機材の更新が行われることになりました。老松公園に設置されている防災倉庫は経年劣化が進み、雨漏りも発生していたため、新しくなりました。併せて、保管物品も「災害時に本当に必要なもの」を基準に見直しを実施。大量に保管していた簡易メガホンやヘルメット、重い担架などは返却し、パーソナルテントや簡易トイレ、ウォータータンクなど実用性の高い備品を整えました。

新しい倉庫と必要な資機材の充実により、地域の防災体制がさらに強化されました。今後も小松自主防災会は、地域の安全を守る活動を続けていきます。



新しくなった防災倉庫



今まで入っていた数々の備品

Co-op コープこらべの宅配商品受取場所

めーむひろば

宅配の人気商品を決まった曜日・時間帯・場所で受け取りできる宅配サービスです。

コープ西宮東で毎週火・金曜日(13時~17時)、水・木・土曜日(13時~20時)に開催中!

※水・木・土曜日はセルフ方式となっております。

利用料 無料

お申し込み・お問い合わせは
コープこらべ 暮らしの情報センター

固定電話・**0120-44-3100** (無料)
公衆電話

携帯電話・IP電話 **0570-09-2100** (有料) もしくは **06-7636-2000** (有料)

受付時間 火~土曜/8:30~19:00
日・月曜/8:30~18:00

ガイドランスに従って「1(宅配に関するお問い合わせ)」を選択ください

めーむひろば 検索

このコードからもアクセスできます



甲子園浜

雪舞う甲子園浜、思いをつなぐラン

スポーツクラブ21甲子園浜主催による「第18回ワンコインチャリティー(あしなが育英会)甲子園浜マラソン大会」が2月8日に行われました。大寒波到来で、雪が舞う厳しい天候でしたが、



寒さの中でもボランティアの支えと温かな声援に包まれました



ゴールを目指せ!

参加者は白い息を吐きながら、懸命にゴールを目指しました。

走り終わった後には、安堵や悔しさがにじみ出る表情、涙する子ども、それぞれに心が動くマラソン大会になりました。

今回、急きよ体調不良で参加を断念した人も多量中、ファミリージョギング200人、ランナー481人、合計681人が参加しました。

鳴尾西

最後の火の見櫓

鳴尾に長く住んでいると、気付けば姿を消しているものが少なくありません。それだけ、この地域が発展を続けてきた証しなのでしょう。

その一つが「火の見櫓」です。かつては火事が発生すると、いち早く半鐘を鳴らし、住民に避難や消火、延焼防止を呼びかける大切な役割を担っていました。しかし現在では、屋外スピーカーによる緊急放送システムが整備され、火災などの情報は迅速に伝達されるようになっていきました。

かつては各消防分団に設置されていた火の見櫓ですが、今や唯一残っているのは、鳴尾支所北側にある鳴尾中分団の火の見櫓だけとなりました。



鳴尾支所北側に残る唯一の火の見櫓

鳴尾北

「ごみ出し新ルール、暮らしの中へ」

4月から、ごみの新分別区分に完全移行しました。もやすごみ、その他不燃ごみ、粗大ごみ、缶・ペットボトル、びん、紙資源等、プラスチック資源へと再編されました。また、「その他プラ」の袋も「共通指定袋」に変更され、より効率的な再資源化を目指して収集曜日や分別方法も見直されました。



ごみカレンダーを確認して正しい分別を!

鳴尾北地区では、1月から新体制を先行実施。里中町を除く各町で、もやすごみの収集曜日が「月・木」から「火・金」へと変更されました。

4月の完全移行後も大きな混乱はなく、地域の皆さんの協力により新しいルールもおおむね定着しているようです。

ごみカレンダーを改めて確認しながら、みんなで気持ちよいまちを守っていききたいですね。

南甲子園

「なるお昔語りの集い」で知る

甲子園素盞鳴神社



2月28日に鳴尾中学校・地域交流室で開かれた「なるお昔語りの集い」で、甲子園素盞鳴神社の宮司・畑中秀敏さんから話を聞きました。



興味深い話に耳を傾けていました

甲子園素盞鳴神社は阪神甲子園球場の西側に隣接し、創建年代は不詳ながら元禄元(1688)年に再建された記録が残る約400年の歴史を持つ神社です。

御祭神の素盞鳴命は武勇の神として知られ、水害よけや疫病退散の神として信仰されています。

大正13(1924)年に阪神甲子園球場が建設されて以来、「甲子園神社」「タイガース神社」ともいわれて親しまれてきました。神社前の道は昨年10月に「ホームランストリート」と名付けられ、甲子園を目指す球児らが祈願に訪れます。

野球の聖地を支える地域の歩みに思いをはせながら、話を聞きました。主催:地域創生交流有志の会「めいゆう」

www.jfe-eng.co.jp

くらしの礎を「創る」「担う」「つなぐ」

Waste to Energy

廃棄物・リサイクル分野で、国内有数の技術と実績を誇るJFEエンジニアリング。
製鉄事業と造船事業を通して永年培ってきた技術が、豊かで安全な都市環境を創造します。

JFE エンジニアリング 株式会社
JFE 横浜市鶴見区末広町二丁目1番地 〒230-8611 TEL:045-505-7876 FAX:045-505-7857



第7回 鳴尾連合自治会のつどい



鳴尾連合自治会
会長
川崎 洋光

地域の文化・芸術活動の発展と継承を図る目的で始まった「鳴尾連合自治会のつどい」は3月21日の開催を持って7回目を迎えました。今回は、図らずも音楽に関連する出し物がそろそろ形となりましたが、これも皆さまと共に明るい春を迎えたいという気持ちの表れかもしれません。温かなハーモニーに包まれた会場内で、地域の皆さまと一体となった気分になりました。

『鳴尾はひとつ』

音でつながる地域のひととサウスウインド吹奏楽



♪音を楽しむ サウスウインド吹奏楽団

団長・松山 博世ひろよさん

最初に壇上に上がったのは、鳴尾で日々、練習に励んでいるサウスウインド吹奏楽団です。

今回は34人の編成で、吹奏楽ならではの華やかな音色を会場いっぱい響かせました。平成5(1993)年に西宮南高校吹奏楽部のOB・OGを中心に結成された歴史ある楽団で、現在は幅広い世代のメンバーが「音楽を楽しむ」ことをモットーに活動しています。

なるお文化ホールの空間を揺らす重厚なハーモニーと息の合ったパフォーマンスは、まさにイベントの幕開けにふさわしい庄巻のステージでした。観客席からも、一曲終わるごとに惜しみない拍手が送られていたのが印象的でした。

曲目：『ウエルカム』『上を向いて歩こう』『山田耕作歌曲メドレー』『お酒ソング・コレクション』『酔奏楽の為の』『宝島』

♪心をうつたう COCORRI (ココリ)

COCORRI



（ココリ）は、ウクレレで弾き語りをするともねさんとけいさん

んが地域イベントに出演した際、ギターで弾き語りを行うみどりさんが飛び入り参加したことをきっかけに、令和5年に結成されました。



会場は心地よい歌声と手拍手で一体となりました



普段は、不定期で地域の音楽ボランティアとして活動しています。

曲目：『オー・シャンゼリゼ』『上を向いて歩こう』『さらば青春』『なごり雪』『笑ったり転んだり』『マツケンサンバII』

♪重厚感のある声 セレスティーナ男声合唱団

団員31人

本イベントのとりを飾ったのは、大正11(1922)年創立という歴史を誇るセレスティーナ男声合唱団でした。

プログラムが進むにつれ、男声合唱ならではの重厚なハーモニーに会場が引き込まれていきました。そして、クライマックス直前の5曲目に、誰もが知る名曲『バラが咲いた』が始まると、団員の呼びかけに応え、客席からも自然と歌声が沸き起こりました。その光景は、まさに音楽を通じての「鳴尾はひとつ」を体現したものとなりました。

最後は、伝統ある男声合唱ならではの深みのある響きを披露し、見事なフィナーレを導きました。

曲目：『遙かな友に』『心の瞳』『愛燦燦』『乾杯』『バラが咲いた』『昇』



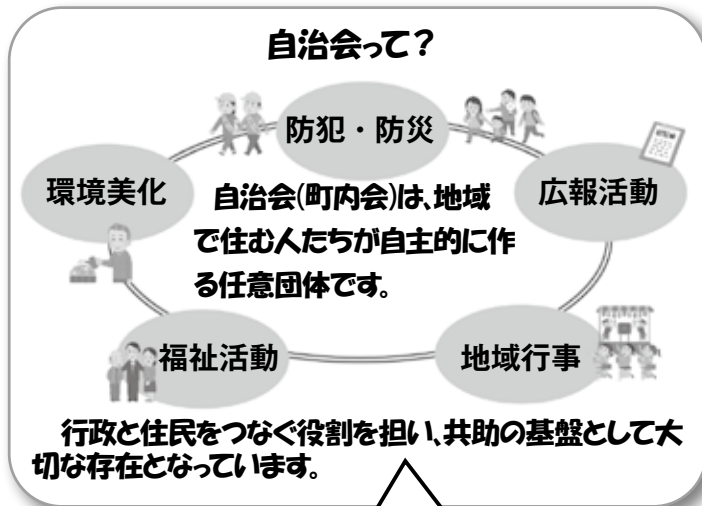
歌声の響きに、会場全体が包まれました

意外と知らない？自治会のこと

【Part 1】自治会の今

～鳴尾のまちを支える地域の力～

岐路に立たされている自治会の活動。本シリーズでは、地域コミュニティとしての自治会の活動や役割を知ってもらい、改めて自治会の取り組みに目を向け、課題を探りながら活性化につなげていきます。



こうした自治会の活動を、一定の地域内の自治会が集まって組織され、地域全体で支えているのが連合自治会です。

鳴尾地域をつなぐ 鳴尾連合自治会の役割

鳴尾連合自治会は、地域の自治会が集まってつくられた組織で、鳴尾地域のまちづくりを進める中心的な役割を担っています。

現在、43の自治会が所属し、事務局は市・鳴尾支所に置かれています。自治会相互の親睦と、明るく住みよいまちづくりの実現を図ることを目的とし、次のような事業を行っています。

- (1) 相互親睦に関する事
- (2) 自治会内各種団体の育成に関する事
- (3) 各校区、自治会の課題解決に関する事業、および市政研修に関する事
- (4) コミュニティーに関する事
- (5) 鳴尾連合自治会の集いに関する事
- (6) その他、必要と認める事

地域全体で支え合いながら、まちづくりを進めています。こうした連携が、鳴尾のまちのつながりと安心を支えています。

(注) 参考資料:西宮市鳴尾連合自治会会則
国立国会図書館発行 調査と情報No.1306(2025年2月4日)
朝日新聞2023年4月9日発行「自治会活動 曲がり角」



自治会の今

総務省の調査によれば、全国には約30万の自治会(町内会)がありますが、毎年約300団体ずつ減少しています。加入率も平成22(2010)年度の78.0%から令和2(2020)年度には71.7%へと下がり、減少傾向が続いています。

西宮市では434団体あり、加入率は平成10(1998)年の88.2%をピークに、令和7年63%まで低下しています(令和7年7月現在)。

そのため、地域コミュニティの中心的な自治会の維持、運営が大きな課題となっています。鳴尾地域も例外ではありません。

自治会を取り巻く環境は、大きく変化しています。地域を支える大切なコミュニティでありながら、その活動は十分に理解されていません。なぜなのでしょう？こうした課題を踏まえ、これからの自治会の在り方を考えていくことが大切です。

自治会活動の課題

- ・ 役員や運営の担い手不足
- ・ 役員の負担と高齢化
- ・ 活動内容と住民ニーズとの隔たり
- ・ 加入率の低下 ・ 透明性の不足
- ・ ライフスタイルや住宅形態の変化による近所付き合いの希薄化
- ・ 行政からの依頼事項が多い
- ・ 組織が硬直化している
- ・ 新旧住民の交流が図りにくい など

鳴尾地区5公民館の講座案内

【★は申し込みが必要。いずれも先着順。特に表記がなければ来館受け付け。材料費は受け付け時徴収】

月	日	曜日	時間	内容	講師	問い合わせ先	
5	13	水	13:30~15:00	「菜の花コンサート」～午後のひととき思い出のメロディを～ 定員:100人 当日受け付け	レモングラス 桑名恵子 望月昌子 北野幸彦	鳴尾公民館 Tel.47-3838	
5	28	木	14:00~15:30	「いくつになっても動ける体へ!」～骨から整える健康づくり～ 定員:30人 当日受け付け	ミライのカラダラボ主催 原 美幸		
6	14	日	14:00~15:00	「吹奏楽演奏会」 ～ファミリーコンサート IN なるお～ 定員:100人 当日受け付け	サウスウィンド吹奏楽団	鳴尾東公民館 Tel.49-1300	
5	30	土	14:00~15:30	健康講座 治療できる歩行障害を見逃さない 高齢者が自立した生活を続けるために 定員:40人 当日受け付け	西宮協立脳神経外科病院 脳神経外科 副部長 大村 知久		
6	15	月	13:30~15:30	認知症予防のための劇 「ばけたらあかん」ばけずに楽しく学びましょう 定員:50人 当日受け付け	劇団「ふれんず」 代表 福田 章	学文公民館 Tel.41-6050	
5	16	土	13:30~15:20	座ってできる楽しい「笑いヨガ」 ～たくさん笑ってストレスの解消につなげましょう～ 定員:40人 当日受け付け 持ち物:水分補給用の飲みもの	笑いヨガティーチャー ほめカード認定講師 岡本 笑美子		
★	5	23	土	13:30~15:30	「写真の上手な撮り方」 デジタルカメラとは一味違う『イイ感じ』を撮りませんか? ※デジタルカメラ(持参)による撮影体験会あり 事前申込:5月8日(金)9:30~来館及び電話にて受け付け 定員:14人 対象:中学生以上の初級者 持ち物:デジタルカメラ(スマホ不可)、デジタルカメラの 説明書、筆記用具	プロ写真家 今井 博子	高須公民館 Tel.49-1312
6	7	日	13:30~16:00	第11回「学文寄席」～笑って笑ってほっこりと～ 定員:80人 当日受け付け	関西大学落語大学 西宮支部		
★	6	21	日	9:30~12:00	誰でもできるスポーツ「モルック」 ～動きやすい服装と室内ばきシューズ～ 定員:30人 対象:年少～一般 事前申込:6月11日(木)9:30~来館または電話にて受け付け 持ち物:飲み物、タオル	武庫川モルックマメシーバ 代表 内藤 平	高須公民館 Tel.49-1312
★	5	18	月	14:00~16:00	健康講座 「塩麹・醤油麹を使った減塩料理比べ」 定員:16人 材料費:1,000円(申し込み時徴収) 事前申込:5月11日(月)10:00~12:00来館にて受け付け 定員に空きがあれば5月12日(火)以降電話にて受け付け 12日以降の申込みの場合は材料費当日徴収 持ち物:マスク・エプロン・タオル・筆記用具	ジン医院 漢方内科医 松沢 祥子	
6	24	水	14:00~15:30	音楽講座 「心身の健康に『うたごえ』をプラス!」 定員:50人 当日受け付け	歌声喫茶 あかとんぼ 米村 博実		

【地域医療講座】 講師：明和病院医師（明和病院の協力を得て開催している講座です）

6	18	木	14:00~15:30	「地域医療講座」～気をつけたい皮膚病～ 定員:60人 当日受け付け	明和病院 皮膚科部長 ニキビセンター長 黒川 一郎	鳴尾公民館 Tel.47-3838
5	29	金	14:00~15:30	ウォーキングを効果的に 定員:50人 当日受け付け	明和病院 森田 裕介	南甲子園公民館 Tel.49-4741

●なるお会館からのお知らせ●
「なるを寄席」


七代目笑福亭松喬一門落語会
開催日:6月13日(土)
時間:14時開演(13時半開場)
会場:なるお会館3階集会所
申込:5月1日(金) 20日(水)必着


申し込み方法(入場無料)
定員:100人
往復はがきに住所、氏名、電話番号、人数(2人まで)を記入の上(記入漏れは無効)、〒663-8184 西宮市鳴尾町3丁目8-7なるお会館まで。

申込期間外のはがきは無効。応募多数の場合は抽選の上、当落をお知らせします。

「宮子」3・4月分で案内した内容と同じです。

問い合わせ:なるお会館
0798-468200
祝日を除く火・金曜日 9~16時
主催:公益財団法人鳴尾会





**画廊カフェ
ラッキーゾーン**
コーヒーと音楽
営業時間10:00~17:00 月・金休
〒663-8176西宮市甲子園六番町3-19
[駅から歩いて3分、ユタカ順子記念館内]
TEL.090-4958-9425 ミニ集会承ります

